

杉戸町立 小中学校 令和6年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況（成果・課題）		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	基礎基本の定着を図り、鍛えて伸ばす指導の徹底	・「いづみっ子チャレンジ（計算、漢字の推進） ・家庭学習の徹底（学年に応じた時間・内容） ・各種検定試験のチャレンジ（英検・漢検） ・スキルアップタイムの取組の工夫改善 ・読書活動の充実（定期的な読書週間、親子読書） ・暗唱（詩・物語） ・暗記（基礎的事項）	・学校評価 ・県学調等の分析データ	B	≪成果≫ ○基礎基本の徹底に取り組み、学力に伸びが見られた。 ○暗唱チャレンジや漢字検定への挑戦を行い、意欲的に参加する児童が増えた。 ≪課題≫ ○読書活動の充実に向け、読み聞かせ活動の充実や親子読書など様々な取り組みを行ったが思うような成果は得られなかった。	○家庭との連携強化 ・読書活動の推進 ・家庭学習の定着 ※合同保護者会による説明 ※学校でも家庭でも大人が「見取る」ことを徹底していく。 ○ICT利活用のさらなる推進 ・個別最適な学習場面での活用推進 ・協働的な学習場面での活用推進 ・教職員のスキルアップ研修の実施 ・先進的な取り組みについての研修の実施	B	・「本」に代わる娯楽の増加によりやむを得ない部分もあるが、本の楽しさを継続しつつ説いていく必要がある。 ・学校での学習内容は充実していると感じた。家庭との連携はもっと必要だと思う。 ・県学調での個人の伸びは小さくても一人一人にとって自信となっていると思う。
	個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実	・杉戸町学力向上プロジェクトの取組の推進（授業スタンダード、5つの柱の実践） ・ICTの効果的な活用 ・学習指導や教材の在り方についての研修の推進 ・一人一人の可能性を伸ばす指導（できる子はどんどん伸ばす）	・学校評価 ・児童の学習状況の変化 ・授業研究の実践状況 ・県学調等の分析データ	B				
豊かな心	心の安心安全な環境づくり	・凡事徹底（あいさつ、返事、靴そろえ、清掃活動等） ・学級経営の充実（学が喜びのある学習集団） ・潤いのある掲示物、子どもの居場所を感じさせる掲示物 ・心に響く道徳授業の充実 ・体験活動を通して良さや取柄をいかに工夫	・学校評価	B	≪成果≫ ○学級経営の充実を重点とし、担任と児童、児童同士の温かなふれあいに努めた。昨年度欠席傾向だった児童も毎日元気に登校できるようになり欠席数が大幅に減少した。 ○体験活動を多く取り入れ多様な経験を積ませることができた。 ≪課題≫ ○児童数減少や地域高齢化による特色ある行事の維持が難しい。	○行事の見直しを行う。 ・豊かな体験を確保しつつスリム化を検討していく。 ○縦割り活動などの異学年交流を充実させる。 ○心豊かになる環境づくりの推進 ・花植えや環境整備を計画的に行う。	B	・児童数が少ないからこそ行える取り組み（縦割り、全校遊び）はとても良い活動だと思う。 ・体験学習はどんどん取り組んで欲しい。体験学習が学校に通う意欲や心の育成にとっても良い影響を与えていると感じている。 ・放課後、地域での子供たちの様子を見てみると学校での「全校遊び」や「縦割り活動」の取り組みの成果が子どもたちの姿を見てよく分かる。
	「学びあい、育ちあい、思い合い」仲間と学ぶことがうれしい学校	・学級経営の充実 ・思いやりの心を育む人権教育の推進 ・キャリア教育、体験活動の充実 ・潤いのある学習環境の創出（清掃活動の徹底、掲示教育の充実、花に囲まれた環境づくり） ・子ども同士、子どもと教師の信頼関係づくり	・学校評価	A				
健やかな体	基本的な生活習慣の徹底	・早寝・早起き・朝ごはんの徹底 ・学校保健、学校給食、食育の充実 ・スマホ、ゲーム依存防止や取組の工夫 ・保護者への意識啓発（講演会、便り等）	・学校評価	C	≪成果≫ ○体力カード等の活用により目標の「見える化」を図り、児童一人一人が自分の目標を持ち意欲的に取り組むことができた。 ≪課題≫ ○県平均値と比較し、平均値に届かない項目が多い。 ○スマホ、ゲーム依存の傾向が見られる児童がおり、視力の低下や集中力の低下がみられる児童もいる。	○体力課題の分析と取り組み ・課題となる体力を補強するための運動を重点化し、授業や教科外体育で取り入れていく。 ・意欲を高める掲示物の作成 ○家庭との連携強化 ・実態調査 ・学校保健委員会の活用	B	・「目標の見える化」が図られており、児童がめあてをもって取り組んでいるところが良いと思う。 ・運動や健康に興味を持つ取り組みは常に行っていく必要がある。 ・学校だけでの解決は難しい。家庭との連携をより強化する必要がある。
	あきらめず、目標に向かって挑戦できる環境づくり	・体力向上プログラムの実施 ・自分の目標に向かってあきらめずに挑戦できる環境づくり （逆上がり、ボール投げ、跳び箱教室等の開催） ・運動時間の確保（チャレンジカードの活用）	・学校評価	B				
学校独自	地域の資源や人材を活用した特色ある取組の工夫と小中9年間を一貫した教育	・学校運営協議会、学校応援団の効果的な活用 ・地域資源、人材を生かした体験活動の充実 ・授業参観、学校公開等の内容の工夫改善 ・ホームページによる学校の様子等の積極的な情報発信 ・小中のスムーズな接続を意識した教育活動や生活、学習習慣の確立 ・小中連携した取組 ・小小連携、交流	・学校評価	B	≪成果≫ ○地域の特色を生かした学校行事を行い、児童と地域の絆を一層深めることができた。 ○学校HPを毎日更新し、積極的に情報発信することができた。 ○学校評価（児童）から自己肯定感の向上が見られた。 ≪課題≫ ○小中連携は不十分であった。 ○児童の情報活用能力育成には課題が残る。	○小中のスムーズな接続のための取り組み ・中学校の生活の紹介 ・作品交流（図工・書写） ・出前授業 ・授業参観 ○情報活用能力の体系的な育成 ・情報モラル ・生成AIの活用とルール	B	・保護者への呼びかけが多かったことはありがたかった。児童、保護者ともに成果がよく見られたと思う。 ・外国籍の児童の多さを逆に活用して多文化教育をしても良いのではないかな。 ・豊かな体験活動がとても効果的であったと思う。
	未来を切り拓く力の育成	・グローバル化に対応する人材の育成（伝統文化、他国の尊重、外国語教育の充実） ・情報活用能力の育成、プログラミング教育の充実 ・ウェルビーイングの向上（自己肯定感の高揚、教師自身のウェルビーイング向上） ・不登校児童減少を目指す取り組み	・学校評価	B				